

多文化共生の今を知る

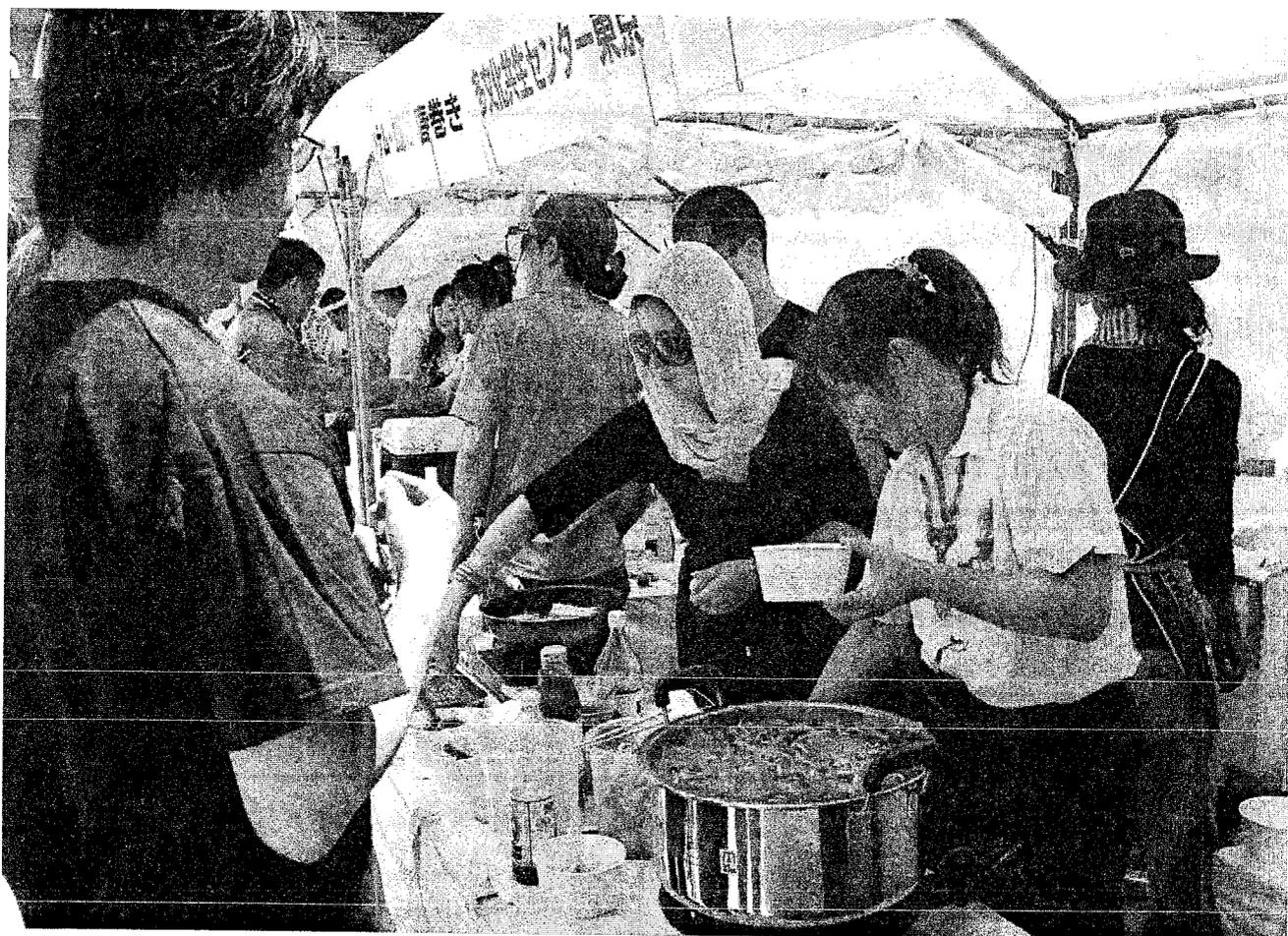
mingle

みんぐる

Vol.32

2010

9月号



7月19日に日暮里駅前で行われた、成田スカイアクセス開業記念「NN36フェスタ」
多文化共生センター提供のエスニック屋台が好評でした（記事は2ページ）

たぶんかフリースクール 夏期講習	1
エスニック屋台が好評でした 日暮里NN36フェスタ	2
最近の活動報告 親子日本語クラス 学習支援・子どもプロジェクト	4
インターンの声「誰かの力になりたい」「一人ひとりが意識を持っていくこと」	5

たぶんかきょうせい とうきょう 多文化共生センター東京とは…

多文化共生センター東京は、阪神淡路大震災の際に外国人被災者に情報提供を行った「多文化共生センター」の東京事務所として2001年4月に開設。2006年4月には多文化共生センター東京として独立し、同年5月にはNPO法人として認証されました。外国にルーツを持つ子どもたちへの教育事業を中心に、子育て支援等のファミリーサポート事業、人材育成や情報提供など多文化共生を広める事業を行っています。

私たちの理念

- **基本的人権の尊重**…「ことば」「制度」「こころ」の壁に起因する社会的不公平によって、誰もが等しく持つ権利が損なわれる不正を是正する。
- **少数者への力づけ**…自分の文化や言語を享受できる環境づくりや、安心して自分らしくいられる居場所づくりにより、少数者自らが自分自身を支えていく。
- **社会へのアプローチ**…多数者である日本人が少数者の状況や、多文化共生社会の意味・大切さ(大変さ・楽しさ)を理解し、日本人・日本社会自身が変わる。

活動内容

<外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業>

たぶんかフリースクール

外国から来た子どもたちが毎日通え、日本語や教科を勉強する学び場を提供しています。

昼…15歳を超えて来日し、日本の中学校に入れず、どこにも学ぶ場のない子どもたち対象

夜…昼間は小・中学校に通う子どもたち対象

■活動日：火曜日～金曜日1:00～4:20、6:00～8:10

教育に関する調査活動

東京に暮らす外国にルーツを持つ子どもたちに関する教育実態調査を行っています。

教育・進学相談

進学・編入など教育に関する相談に、電話や来所に対応しています。また「日本語を母語としない親子のための高校進学ガイダンス」を、多言語(6言語)で、多団体と実行委員会形式で開催しています。

子どもプロジェクト

主に高校進学を目指す子どもたちへボランティアペースで教科や日本語の学習支援と、アクティビティ等による居場所づくりを行っています。

■活動日：毎週土曜日3:30～5:30

<外国人の家族と子育て支援事業>

親子日本語クラス

小学生以下の子どもと外国から来た親を対象に、生活に必要な会話や読み書きをボランティアと一緒に学ぶ教室を開いています。

■活動日：毎週土曜日 1:00～3:00

ボランティア募集中! (裏表紙へ)

現在、子どもプロジェクト・親子日本語クラス・広報チームでは特にボランティアが不足しています!

<多文化共生に関する人材育成・情報提供事業>

多文化共生のための人材育成

多文化共生に関する研修への講師派遣や、活動に関わるボランティアやフリースクール講師等を対象とした研修会を行っています。

情報提供 (広報チーム)

本誌「mingle」(年4回)、会員へのメールニュース「多文化だより」(月1回)、メールマガジン「多文化News from Tokyo」(月1回)等を発行しています。■活動日：随時



フリースクール夏期講習

たぶんかフリースクール
多文化自由学校
Multicultural Free School

「猛暑」という言葉があちこちで聞かれたこの夏、外に出るのだけでも嫌になるような日差しの中、今年も多文化フリースクールでは夏期講習がおこなわれました。

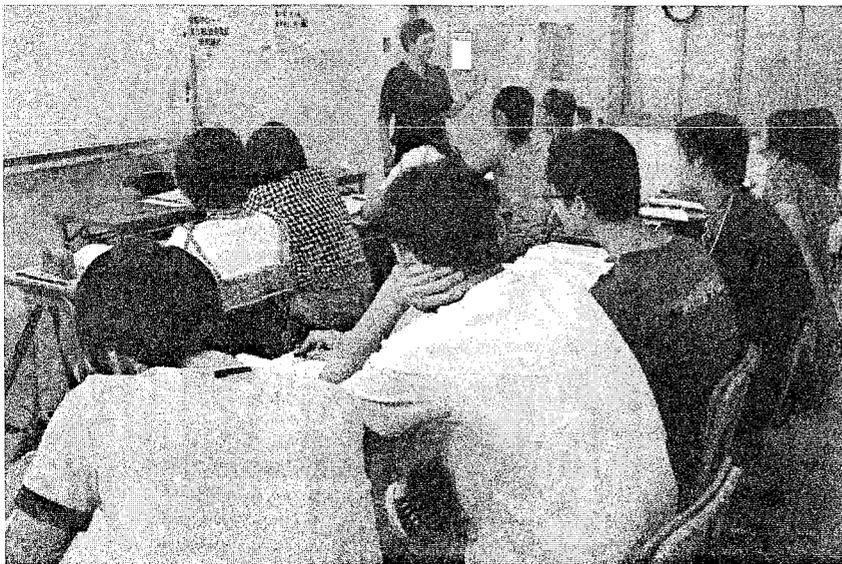
今年の参加者は約50名。それまでもフリースクールに通っていた生徒から、学期中は中学校に通っていて夏だけ参加する生徒、来日したばかりの生徒など、様々な顔ぶれが集まりました。あまりの人数の多さに机や椅子の確保からクラス分けなど、始まる前からスタッフも大忙しでした。それでもお盆の時期にもかかわらず応援に駆けつけてくださった先生方やアシスタントの方々の協力もあり、3週間の夏期講習を終えることができました。

夏期講習は日本語、英語、数学、理科、社会を勉強することができます。7月までは日、英、数しか勉強していなかったの、理科と社会ははじめて。社会は世界地図を覚えるところからはじまります。母国語とは違う発音の世界中の国の名前を覚えるのはなかなか難しく、ヨーロッパの地名を覚える授業では、「なんとからンド…ディズニーランド!?」などという珍回答も飛び出していました。

日本語の初級クラスでは来日して間もない生徒が総勢13名。「あいうえお」からはじめました。最初はひらがな・カタカナを読むことにも苦戦していた彼らでしたが、3週間後には積極的に覚えた新しい言葉をノートに書き込む姿も見られました。

日本語のクラスでは暗記の大会も行われました。教科書の本文を暗記し、みんなの前で発表します。すべて覚えるだけでも難しいのに、細かい助詞やイントネーションなどに苦戦していましたが、一生懸命に練習してがんばりました。

また、荒川区ハートフルの1年生2年生の生徒たちも、集中して日本語の勉強をしました。一生懸命がんばっている姿を、荒川区の中学の先生方をお招きして見ていただくこと、全員が自分たちの好きな日本語の長文を暗記して発表しました。来てくださった先生方は「日本人でも覚えられない長文を覚えたあなた達から元気をもらいました」と優しく生徒たちに話してくださいました。



そして夏期講習は勉強だけではなく、昼間のフリースクールだけで勉強している生徒たちと、心だんは中学に行っている生徒たちが知り合える場でもあります。年齢が近い者同士、母国語が同じ者同士、たちまち仲良くなり、授業が終わった後には集団で下校する姿が毎日のように見られました。夏期講習はあっというまに終わりましたが、一緒にがんばる仲間を増やして、2学期を迎えられたならいいなと思います。

やたい こうひょう エスニック屋台が好評でした

にっぽり さんろく 日暮里NN36フェスタ

荒川区は海の日・7月19日に、成田スカイアクセス開業記念式典（NN36 Festival in ARAKAWA）を開催しました。「成田スカイアクセス」は、7月17日に開業した日暮里から成田を36分で結ぶ成田新高速鉄道、「NN36」とは日暮里のNと成田のN、その間を36分で結ぶという意味です。春の多文化「ユース★フェスタ」で好評を博した多文化屋台が、荒川区の助成を受けて出店し、184,300円の売り上げがありました。この日の収益・98,000円は、多文化共生センター東京の活動に活かします。関係者や参加者のみなさん、どうもありがとうございました。

これが「本物の」ハロハロだ！

フリースクール生や卒業生たち、フィリピンの子供たちは冷たいデザート「ハロハロ」の屋台を出しました。7月はフリースクールの授業の後で、みんなで残って、「それじゃやハロハロらしくない」「ハロハロはこうだ！」とあつ議論を重ねました。みんなそれぞれ、出身地や好みによって「ハロハロはこうだ！」が違うのです。

先生方もまきこんだ熱い議論と試作の結果 1. 底に、かき氷シロップとコンデンスミルク 2. その上にかき氷 3. トッピングは、コーンフレークとナタデココ、ホワイトスイートピーズ、チョコレートスプレーに決まりました。

当日はとても暑い日で、会場全体に「熱中症に気をつけて、こまめな水分補給をお願いします」というアナウンスが、たびたび流れます。つづけて屋台から「水分補給にハロハロはいかが」と呼びかけると、すぐに長蛇の列ができ、甘くて冷たくて美味しいハロハロは飛ぶように売れたのでした。

かわ て すいぎょうざ 皮から手づくり水餃子

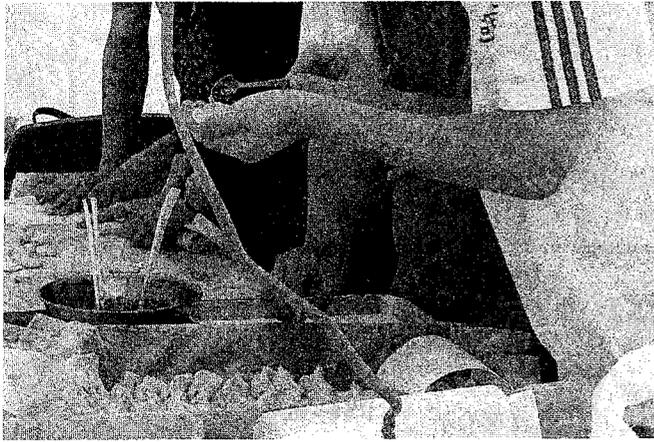
中国にルーツを持つ子供たちは、お母さんたちも巻き込んで、水餃子に挑戦！ みんなこだわって皮からの手づくりです。本場風味でニンニクも入れません。あっさりとして、しかし美味しい夏向きレシピです。皮づくりチーム、



こどもたちが手書きでつくった看板

「たぶんか」ハロハロ





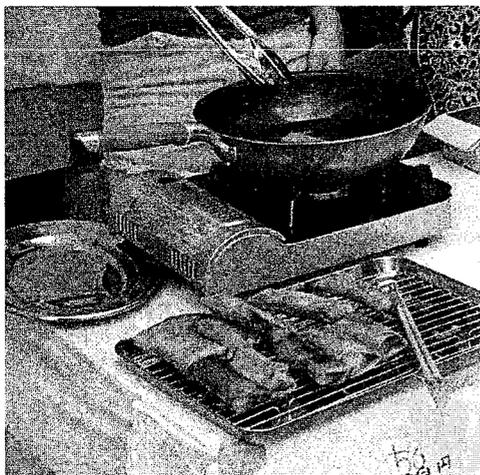
かわ て れんげい すいぎょうざ
皮も手づくり 連係プレーの水餃子

眞づくりチーム、つつむチーム、ゆでるチーム、盛り付けチームに分かれて、フリースクール生は放課後に試作を行ない、当日は卒業生も加わって、見事な連携プレーを見せられました。お昼すぎには見事に完売！市販の皮を使わず、一から手づくりをしたことによって、大きな利益ももたらしてくれました。

ね さ かんぱい あ はるまき 値下げで完売、揚げ春巻

学習支援・子どもプロジェクトのボランティアは春巻に挑戦しました。ただ、残念なことに、イベントやお祭りには保健所の指導があって、生春巻は屋台では売れないのです。当日もお客さんから「生春巻ならなあ……」という声が聞こえてきます。揚げ春巻、はじめは3本200円で売っていましたが、1本50円に値下げ、すると、水餃子やタイラーメンといっしょに買う人も出てきて、2時には完売することができました。

ね さ かんぱい あ はるまき
値下げで完売した揚げ春巻



あらかわ どうじょう 荒川ケーブルテレビに登場！

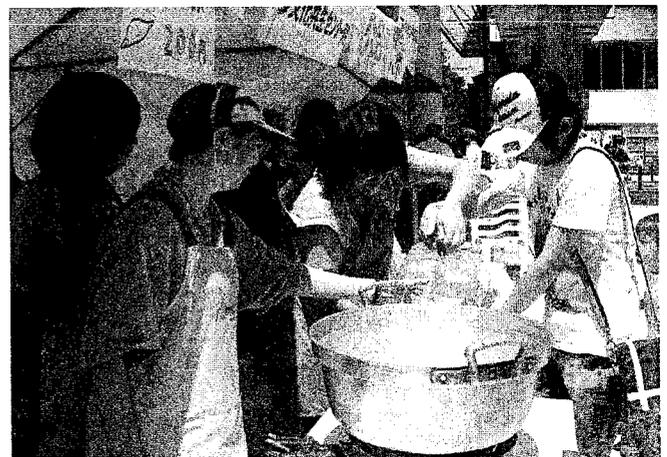
タイ「トムヤムクンラーメン」

「親子日本語クラス」は、タイ出身のお母さんの指導を受けて、タイの「トムヤムクンラーメン」に挑戦しました。おもな材料は前もって西川口に買出しに行き、本場の素材にこだわりました。しかし、味付けはあくまでも日本人を意識して少し薄め。あくまでも本場風にこだわるお客さんには、調味料を足してもらってお好みにしてもらいました。

その工夫のおかげか、当日の売れ行きは好調で、足りなくなる材料も出てきてしまい、メンバーは近所のスーパーまで真の追加調達にも足を運びました。日暮里NN36フェスタの様子は当日、荒川区のケーブルテレビに紹介されましたが、そこでは数ある屋台の中から「トムヤムクンラーメン」が紹介されました。

タイ「トムヤムクンラーメン」屋台は、日暮里駅前で9月23日に開かれる「アジアフードフェスティバル」にも出店予定です。

おいしいトムヤムクン ここに麺を加えます



がんばった水餃子チーム

さいきん かつどうほうこく ～最近の活動報告～

おやこ 親子プロジェクト

おやこにほんご まいしゅうどうび じから じ
親子日本語クラス 毎週土曜日1時から3時

親子日本語クラスでは、日本語は話せるけど書くことができない、国際結婚をした外国人女性や在日韓朝鮮人のオモニが日本語の読み書きの練習をしています。

一つの教室では、4人のオモニが勉強をしています。長年日本に住み、不自由なく日本語が話せるようでも、日本語の基礎を学んでいないので、「か」と「が」、「き」と「ぎ」を使い分けていなかったなど、意外な落とし穴があるようです。ボランティアから、「最初は、「か」は「んが」、「き」は「んぎ」と発音してみると、いいですよ。」と教えられると「今まで、適当に話していて、区別していなかった!」「先生に教えてもらって、よくわかった」と感嘆の声をあげていました。

マンツーマンの指導の後、最後の30分は、みんな一緒にゲーム方式の言葉の勉強をしました。「口人よれば文殊の知恵」「聞くは口時の恥、聞かぬは口生の

恥」というように数字を使ったことわざの、数字に何が入るかを当てるゲームですが、さすが人生の先輩、「女三人集まれば、お皿に穴が開く」(女の人が集まると、人の悪口などをたくさんしゃべるのでお皿に穴が開いてしまう)ということわざもあるよ。「知らぬが仏」とも言うしねー。」などといった声が次々と飛び出し、教室に笑いが広がります。

日本語を勉強する動機は、それぞれかと思いますが、受験のような義務ではなく、自分の意思で、しかも年齢を重ねてからの勉強に真剣に取り組む姿には、頭が下がります。

こ 子どもプロジェクト

がくしゅうしえん まいしゅうどうび じはん ときはん
学習支援 毎週土曜日3時半から5時半

親子日本語クラスが終わった後の教室に、一人、また一人と子どもが入ってきます。以前は圧倒的に中国出身の子どもが多かったですが、最近ではフィリピン人の子どもの数も増えています。やって来る子どもの年齢は下は小学生から上は高校生まで幅広いですが、夏休みに入ってから夏休みの宿題を持って来る子どもが多いようです。

子どもによって内容はもちろん、勉強に対する集中力も違います。ちょっとやる気が出ない子どもをいかに集中させるかは、ボランティアの腕の見どころですが、一方で土曜日の学習支援は、学校や学習塾ではないので、あくまで本人のやる気次第で

す。以前には、もっとカリキュラムを整えて、しっかり教えたいというボランティアの声もありましたが、土曜日は「子どもの居場所」を作ることが一番の目的ということで、少し緩いけれども、温かみがある活動が地道に続いています。

誰かの力になりたい

インターンの声

ひとみし えいご わたし き
人見知り英語もろくにできない私 がここに来たの
だれ ちから ちから ちから
は、誰かの力になりたいと思っただけです。はじめ頃は
ひとみし はっき せいと う と
人見知りを発揮してしまい、なかなか生徒と打ち解ける
ことができなかったのですが、生徒たちが「とがし先
せい はな すこ なかよ
生！！」と話しかけてくれたおかげで、少しずつ仲良
なれました。時々、教室や廊下では中国語や英語、
とまどき きょうしつ ろうか ちゅうごくご えいご
タガログ語が飛び交い日本人の私は孤独感の様なもの
ごと にほんじん わたし こどくかん よう
を感じました。在日外国人の辛さを今まで感じたこと
かん ざいにちがいこくじん つら いま かん
がなかったのですが、この出来事が日常生活で起きて
で き こと にちじょうせいかつ お
いると考えると辛く寂しいことだということ、多文化
かんが つら さび たぶんか
共生ということ、感じることができました。

一人ひとりが意識を持っていくこと

ひとり いしき も
インターンシップを通して私は外国人児童の現状に
とお わたし がいこくじんじどう げんじょう
ついて知ることができました。多文化共生センター東
し たぶんか きょうせい どう
京には主にアジア出身の生徒が多いのですが、同じ
きょう おも しゅうしん せいと おお
23区内でも地域によって外国人の出身地の特徴が
くない ちいき がいこくじん しゅうしんち とくちょう
あることがわかったり、学期や年齢が違うことから中
がっこう へんにゅう むすか らいにち ま にほん
学校への編入が難しいこと、来日して間もない日本
ご せいと にほんじん おな
語もまだよくわからない生徒にとっての日本人と同じ
にゅうし ろう ごうかく むすか おお にほんじん
入試を受けて合格することの難しさ、多くの日本人の
ちゅうこうこうせい ぜんにちせい がっこう
中高校生が全日制の学校
かよ いっぽう やかん
に通っている一方で、夜間
ちゅうがっこう ていせい つうしんせい
中学校や、定時制、通信制の
こうこう かよ じどう おお
高校に通っている児童も多

くいます。

せいと えがお かがや
それでも、生徒たちの笑顔は輝いていたし、
じゆぎょう とく しんけん しせい わたし
授業に取り組む真剣な姿勢が、私もがんば
らなきゃという刺激を与えてくれました。元氣
しげき あた げんき
な生徒たちにエネルギーを吸い取られる毎日
せいと す と まいにち
でしたが、「先生、ありがとう」の言葉が自分に
せいせん ありがとう ことば じぶん
とっての財産になった気が
ざいさん ま
します。力不足なところ
ちから ぶそく
も多かったのですが、楽し
おお たの
い時間を送ることができま
じかん おく
した。ありがとうございました。
した。

くわ ぶくざつ かていかんきょう ことば じょうたつ
それに加え複雑な家庭環境や、言葉が上達して
にほん しゃかい ぶんか な
いっても日本の社会や文化に馴染んでいくことの
むずか かん
難しさがあることを感じました。インターンシッ
ぜんたい とお わたし かん がいこくじんじどう
プ全体を通して私が感じたことは外国人児童に
たい くに たいおう おく にほん がいこくじん
対する国の対応の遅れや日本のスタンスが外国人
たい にほん ぶんか しゃかい どうか
に対して日本の文化や社会に同化させようとして
くに がいこくじん たい あゆ よ
いること、国からの外国人に対する歩み寄りのよう
かん かん もんだい げん
なものを感じられませんでした。こうした問題の原
いん おお ひと もんだい し
因に多くの人がこの問題について知らない、または
かんしん にほん がいこくじん すく
関心がないことや、まだ日本には外国人が少ないと
おも ひと おお
思っている人が多いということがあるのではないか
おも たぶんか きょうせい どうきょう
と思いました。多文化共生センター東京のよう
かつどう わたし ひとり ちん
な活動が広がるために私たち一人ひとりがこの問
だい たい いしき も じゅうよう かん
題に対して意識を持っていくことが重要だと感じ
ました。